

# 審議会等の会議結果報告書

課所名

都市計画課

会議名 第4回 諏訪市都市計画マスタープラン改定委員会

開催日時 平成30年7月30日(月) 13:30~15:25

出席者 委員:岩波健一、蟹江弓子、金子智子、神山裕子、北原美智子、倉田直道、宮澤節子、請地貴史、  
矢崎竹代、山谷恭博、渡邊芳紀 11名  
諏訪市:小松建設部長、金子都市計画課長、下澤計画係長、百瀬主任、武井主任  
傍聴者:なし

資料 ◇事前配布資料  
【資料1】諏訪市都市計画マスタープラン(7/30 現在素案)  
【資料2】諏訪市立地適正化計画(7/30 現在素案)  
◇当日配布資料  
次第、委員名簿、資料2の P68 差し替え資料

## 協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1 開会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1)都市計画マスタープラン

・素案(H30.7.30 現在)

(2)立地適正化計画

・素案(H30.7.30 現在)

(3)各委員から意見・感想等

4 その他

5 閉会

[質疑意見一括]

3 協議事項

(1)都市計画マスタープラン

委員: マスタープランの 86 ページに「住民参画における各主体の役割」とあり、表が記載されているが、役割とどこがその役割を担い、どのような目標を設定していくかということで、実動部隊との関連が非常に重要だと思う。実動部隊との連携をどのようにしていくのか。

事務局: 数値目標の進捗管理になるかと思うが、計画を策定して色んな施策を各課と協議しながら考えていったり、国の補助制度がこれから増えると思うので、そういったものを関係課と連携・協議しながら緩やかに誘導し、進めていくイメージ。今のところこういった組織をつくるというような、具体的な検討はまだしていない。

委員: どういう団体やどういふところに協力を得ながらやっていくと効果的かというのは、これから色んなことが細かく決まったときに、徐々に進めていき、見える化するという解釈か。

事務局: 都市計画マスタープランは都市計画法に基づいてつくる計画である。したがって、いわゆる理念計画となっており、こういった表現になっていることを御理解いただきたい。また、本計画づくりにあたり、上位計画として諏訪市総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略がある。その中では官民連携の施策が多々出てくるため、その辺りの管理をしながら具体的に動いていくということになる。都市計画マスタープランとしては、どこの団体と具体的に連携していくということまでは計画上出てこないが、今後関係計画との中で具体的に進めていきたいというよ

うに御理解いただければと思う。

副委員長: そうすると、第五次諏訪市総合計画後期基本計画の中に住民の役割や行政の役割が具体的にになっているということでもよろしいか。

事務局: 良い。

委員長: 従来の進め方もこういう形で役割が記されていたと思う。まちづくりのために、各主体がバラバラに何かをやるというのではなく、協働して市民と行政、あるいは企業が連携してまちづくりを進めていくというような、エンジンになるようなプラットフォームが必要だということは、計画書のどこかに記されていてもよいと思う。最近では官民のパートナーシップといった言い方もかなりされている。ここではあくまでも理念なので、あまり具体的なことは書けないと思うが、少しそういった観点、連携といった視点が大事になってくると思う。

### (3)各委員から意見・感想等

委員: 災害関係について、最近各地の災害の報道に比べ、諏訪はわりと平穏に過ごせる良い場所だと思っている。しかし、これからは予期せぬ災害まで考慮しなければいけないと思う。災害時における対策について、項目としては書いていただいているが、道路の分断であったり、諏訪湖が溢れたときの湖周の孤立であったり、そういうことも踏まえた中で、全体的にコンパクトな諏訪市として考えていただいているが、そのコンパクトさの中に、それぞれの地域である程度の時間、孤立した状態あるいは支援が来るまでの状態の中で、対応できるだけの最小限の施設が整えられた形が必要だと思う。昔の集落のように、集落ごとに最低限の施設が整っているということがひとつの単位としてあり、その上に諏訪市としての都市機能誘導区域ということで、有効な施設が有効な場所にあるという捉え方ができればと思う。もしくは何かあったときには、市役所や各公民館から支援物資が被災地にすぐ届くような対策、それは当然道路整備や交通アクセスも絡んでくると思うが、予期しないことが続いているため、現状プラスアルファの対策も考慮していただければありがたい。

駅前開発は観光という面では諏訪湖側が中心にならなければならないと思う。特に西口から諏訪湖に通じる道路は、諏訪の顔として機能しなければいけないのではないかと思った。先日「よいてこ」を見に行ったが、踊りも鉤の手に曲がっての踊りになっている。例えば茅野の「よいてこ」だと、広い大通りを1本で通るため、お祭りとしての見栄えもある。そういうことも含めもっと良い環境でのお祭りが実施できるような形、それは単純に広い場所があればよいということも含めて、西口の開発を御検討いただければと思う。

また、バイパスについても、何かあったときの基幹となる道路としての機能を全うできるものにしていただかなければいけないと思う。

また、かりんちゃんバスについて、なるべくたくさん乗っていただく道路の渋滞も緩和できるということ、本当に有効な時間帯の活用、他地区のバスとの連携が悪いということがある。例えば下諏訪、岡谷へ行くのに、上諏訪駅に来てそれから他地区のバスに乗り換えれば市外の学校の開始時間に間に合うような時間配分のバスをつくっていただければ、かりんちゃんバスの有効活用というのもお一層考えられるのではないかと思った。

委員: 数年前区の協議委員をやったときに、防災に関する訓練をもっと具体的に進めなければいけないのではないかという意見を出したが、誰も耳を貸してくれなかった。ここ数年、避難所の設置訓練などを区で行っており、意識が変わってきた。数年前までは被災する時には自分達も被災するから誰も助けに行けないという雰囲気があったが、変わってきて非常に良かったと思う。今避難所に指定されている場所は、その区域の人達が避難するととても収容しきれない状況かと思う。各地域で具体的なところまで検討していった方がよいのではないかと常々思っている。災害が起きるたびに災害の考え方や対応の仕方が進化しているため、そういったことも学びながら諏訪の防災体制を考えていきたいと思う。

諏訪湖そのものは諏訪市だけのものではないため、広域や周辺の市町村で考えていくものだと思う。健康、環境、観光、災害すべてに関して諏訪湖の管理や対策を何とかしていかないと大変だと思っている。上川の河口では、浚渫工事がまったくされていないため、流れてきた泥は溜まる一方で、さらに土が溜まり、鳥が止まっている状況を見ると冷や汗をかく。諏訪湖そのものの管理というのすべての方針に共通して必要になってくるのではないかと思う。

公共施設をつくるに当たって人手不足が深刻な問題になっている。例えば、介護に関する施設は介護保険に関する委員会で、施設数やベッド数を検討しているが、いずれ人手の問題も一緒に考えていかないと、ベッドはあるが職員がおらずベッドを使えない状況が出てくることもあるかと思う。そのため、働き手の問題と施設を増やすということをうまくバランスを取っていく必要があると思う。

もう1点空き家の問題だが、新聞でも色んな方々が空き家の問題に取り組んでいるとある。取り壊しに費用がかかったり、持ち主がわからなくなるなどして、いつの間にか空き家になるということがある。税金をかけるのも大変なので、何かうまく仕組みで空き家になったときにはどこかに登録・ストックして、住居を移動するにあたっての何か方策に繋がるような流れができるとよいと感じる。

委員: 毎日福祉施設へ通っているため、湖南の山の方に住んでいた方たちで、家をそのままにして住む人や子どももなく施設に入居している高齢者の話を聞くことがある。その中で、炭を焼いていたとか、福寿草祭りをしていたという文化が消えていくと感じる。住んでいた所へ行きたいという高齢者もいるが、実際に見に行こうという話をすると、「行ったって何も無い。屋根も潰れたような家を見るのも切ない。」と言う。昔のお祭りなどを思い出して話を聞く中で、教育の一環に活用するなど何らかの活用方法を考えて、そういう炭を焼く場所もひとつくらいあってもいいと思う。昔から一生懸命村づくりをしてきた人たちの思い出をつくる場所があってもいいと思った。

委員: ここ最近の様々な水害のニュースがある中で、諏訪市は過去にも水害があったと思うが、かなりの確率であらった水害が起こるのではないかと思う。今回の水害で集落はすべて水没したが、地区のコミュニティの中で、行政の避難勧告より前にみんなで避難を呼び掛け、全員で避難し、全員が助かったというニュースを聞いた。それを聞くと普段からの地域でのコミュニティが大事だと感じた。

立地適正化計画の差し替えのあった 68 ページの上諏訪駅周辺の歩行者数の目標値について、西口は諏訪湖への道路が開けばもっと増えるだろう、もっと増えて欲しいというイメージを持った。逆に東口の歩行者数の目標値が現状値より 50 人増えているが、時間がお昼前後と夕方ということ考えると、ほとんど高校生ではないかというイメージを持ち、子どもの数も減っていく中でこんなに増えるものかと思った。あと、今のまだ歩ける高齢者のうち女性の半数近くは免許をもともと持っていないから昔からずっと歩いているという人達である。私達が高齢者になる 15 年後となると、車生活をしてしまった人間がそろそろ免許を返納して歩かなきゃという風にはならないのではないかと思う。だから、なかなかこの目標値は厳しいのではないかと感じた。現に湯の脇の駅から3分ほどの場所に住んでいる友人は「買い物する場所が近くなったはいいが、重たい荷物を持って歩きたくないから、そんなに近くにいても買い物に行くならやはり車で行くと思う。」と言っていた。また、「建物への車の出入りが難しい場合などは今までどおり違う場所へ買い物に行ってしまうかもしれない。」とも言っていた。そういった話を聞くと、上諏訪駅前のビルができることによってイコールすぐ歩く人が周辺で増えるかどうかというのは、地元では逆に厳しいのかなと妙に納得してしまうところもあった。

空き家の話が出たが、宅建業協会も空き家対策は色々進めており、諏訪市でも空き家対策をずいぶん色々やっていたいて連携をとって行っている。しかし実際は、名乗り出てきてくださる方の空き家はどのように考えても住むことができないものばかりである。修繕して誰かに売る、誰かに貸すとなったら、数百万から一千万くらいかかってしまうのではないか、解体した方がどう考えても早いという物件しか挙がってこない。そして、持ち主とすると自分の財産がゼロとか、負の遺産としてマイナスと言われてしまうと傷ついてしまい、そういったところが難しい部分でもある。ボロボロで解体するしかないとわかっている、解体してしまったら固定資産税が上がるからそのまま放置しておこうという場合もある。もしくは、祖父母や親の代で相続しておらず、孫の代でそれを売るとなると関係者全員のハンコが必要になるため、面倒くさいから自分の代でしなくていいということもある。一代さらに二代まで相続されないと、その物件は解体するにも関係者の所在や連絡先がわからず、結局解体できないという状況があり、本当は、相続はある程度早めにしていただきたいと思う。また、荷物がいっぱいあるからそれを処分するのにお金がかかり、いつでもいいかとなる場合もある。荷物がある、解体もしくは修繕する費用がない、相続人が誰かわからない、この3つが大きな足枷になって進まないのではないかと思う。

委員: 資料がカラフルになり見やすくなっていると感じ、読み進めていた。どうしても今までは関心が家の周りだけだ

ったが、この会に参加させていただいて色々な面で勉強させていただいている。子どもたちの未来を考えての諏訪市のまちづくりだと思うので、今後、小学生や保育園のお子さんを持っている子育て世代のママたちも、関心を持ってまちづくりに参加していけるようになればいいと思う。

委員: 安心・安全のまちづくりがやはり大事かと思う。その中には交通事故防止、犯罪抑止がある。

交通事故防止については、車と車の事故もあるが、歩行者と車や自転車と車という事故も防止していかなくてはいけない。例えば、まちなかで子どもが安心して通学できる歩道の整備とか、そういったところも考えていただければありがたいと思う。また、諏訪湖の周辺では、県外から自転車を車に積んできて、そこで降りて自転車に乗ってらっしゃる方も結構いる。道路を見ると、車と自転車がスレスレで通っているため、自転車と車が共存できるような道路づくりも検討していただければと思う。

犯罪抑止については、賛否両論あるが、例えば防犯カメラの設置だとか、そういったことをやっていただければ、諏訪地域は防犯カメラがあるから悪いことができないという抑止にもなるので、そういったことも検討いただければと思う。また、ドライブレコーダーは移動式の防犯カメラになるため、そういったところも検討いただければと思う。

委員: テレビをつけると上諏訪のことを放送しており、上諏訪の第一印象は温泉、上諏訪温泉と地域の温泉がたくさんあるということを放送していた。立地適正化計画 68 ページの観光客数を見ると、目標値は現状値よりあまり増えていないが、上諏訪温泉は全国に広がっているため、私はもう少し人数も多くなって欲しいと思っている。

また、地域に各温泉があるが、地域のコミュニティが段々しっかりとしてきている。2人の息子がおり、小学1年生になったときに、3歳下の弟と2人で男風呂に行ってしまった。私は親として心配していたが、地域の高齢者がちゃんと面倒を見てくれて、安心して入らせることができた。今は主人がお風呂に行ったときには地域の子どもの面倒を見ている。この地域のコミュニティが上諏訪は断トツだと思う。その温泉が、段々組合員が少なくなってきてしまい、どこの温泉も持続に困っている。何とか上諏訪は上諏訪温泉をもう少しPRして、温泉は旅館街だけでは駄目だと思うので、地域の温泉をもう少し増やしていただけたらいいと思っている。

防災について、うちの地区は3年ほど前からシュミュレーションをしている。そうすると、みなさんの危機感が変わってくる。すごい反響があり、みなさんが真剣に考え、じゃあこの場合はどうしようと、組毎によく話し合いをするようになった。私は前から家庭、組、組毎の関連をしっかりと連携を取ってもらうのが一番良いと思っている。そして区、この段階で段々上がっていけば、何重にも防御ができるのではないかとと思っている。新年に区長さんが組長さんに挨拶をする時に、要援護者の名簿を見せて各組に連絡するようになった。それを6年くらいやっている。組長さんは1年交代で各家庭を回っていくため、その組の全員が把握することになる。しかし、区に入っていない方も現れ、そのときにどうするのが今問題になっているが、とにかく自分の家庭、隣近所、組、この単位がしっかりしていたら、何とか災害があったときは乗り切れるのではないかと思う。実践して3年位のシュミュレーションの評判が良く、いろいろな所でやり始めたいという声が上がっているのでも、何か少しでもよいので安全・安心を良い方に広げていきたいと思っている。

委員: 用語集の中に公共交通の解説を入れていただきたいと思う。両計画の中に公共交通という文言が出てくるが、表現の仕方そのものが狭義の公共交通、かつての公共交通というイメージでしか展開されていない。しかし、バリアフリー法や新しい法律がたくさん出てきており、公共交通の概念はどんどん変わってきている。幹線となるバスと鉄道だけでは駄目だということで「フィーダー」という概念が出てきている。その中にタクシーと自家用有償車両というのがあり、諏訪市には自家用有償車両の協議会は無い状況である。例で言うと、デイケアの送迎は白ナンバーのため自家用有償車両で、あれはお金を取ってもよい。ただお金を取るには手続きが必要になる。この自家用有償車両も公共交通に組み込まれつつある。だから是非用語集に、鉄道とバスだけではなくタクシーや自家用有償車両の両方を、公共交通の概念として入れていただきたい。例えば過疎地の場合、この辺りでは後山にあると思うが、自家用車の方がガソリン代相当の金額を徴収し、近隣の方を乗せて目的地まで行くということが許されてきている。それも位置付けは公共交通である。そういうことを是非やっていただければと思う。

公共交通という立場で、西口は非常に大事になる。ただ、西口の開発となると、イメージにはなるが範囲はどこ

までなのかとか、バスターミナルだけでできればよいのか、公共交通という意味ではバスターミナルだけでできても駄目で、バス以外の自家用有償車両なども集積できる場所がなくてはいけない。是非その辺りの詳細についても詰めていただけるとありがたい。

温泉の話が出たが、諏訪湖マラソンの時に地域の各温泉で料金を取って、入ってもらえばいいじゃないかという提案を何回かしているが、なかなか地域の方がよく知らない人を入れたくないということがあり実現しない。確かに温泉がもたないないので、そういうことが進めばいいと思う。

都市計画は住民が主体となるが、観光の面から、何によって収入を得ていくかということも大事になると思う。マスタープランの中で、諏訪の立ち位置をきちっとしていくことも必要だと思う。諏訪のイメージは、昔の東洋のスイスというイメージで、どうしても精密が主体だと思う。ところが実態の数字としては、工業生産高は789億円しかないのに対し、第3次産業いわゆる観光関連は1,600億円以上ある。諏訪は観光のまち、商業のまちに変わりつつあるということをし、しっかりとマスタープランの中でどういう形でも構わないので記載していただきたいと思う。諏訪には5千床くらいの宿泊のキャパがあるがこれは大変な数字である。これを有効に利用していくのなら、前提に工業のまち一辺倒ではなくて、観光のまち、商業のまちというのも大きな収入源となり、そこに従事する方達も4千人近くいるため、そういう方たちが暮らしやすいような、動きやすいようなプランを考えていただければと思う。

委員: バイパスがほぼ10年後には開通するのではないかという予想をしており、そうすると交通網は非常に変わると思う。公共交通網は海外に行くと、スマホで近くにいるタクシーが来て目的地を伝えたと金額を直接払うのではなくスマホで決済し、非常に安い金額で利用できる。日本はそういう点で遅れていると感じている。すぐそれを直すことはできないが、交通に関しては諏訪市だけで考えるには無理があり、6市町村で少なくとも考えていただかないといけないと思う。うまく目的地にアクセスできないと利用者が少ない、もっと利用するにはアクセスが良くなるということが条件ではないかと思う。そのうちに、乗り合いタクシーという形で使えるようになるのではないかとと思うが、いずれにせよ茅野に行くには諏訪市のどこに行けばいいという、そういうようにならないといけないと思う。学校へ行くにも上諏訪駅まで来て電車で茅野駅まで行って、茅野駅から学校へ行くということを考えると、例えばそういう路線がうまく接続できればよいのではないかと思う。

もう一つは人口の問題だと思うが、上諏訪駅前の商店街がある本町辺りは、昼間は人口が多いが夜になると住んでいる人は少ない場所である。夜は他地区に家があってそちらに住み、昼間に来て商売をするということである。これからできる駅前マンションはどういう人たちが入居するかわからない状況である。今までも諏訪にマンションが数多くでき完売しているが、そこは今のところ人口は増えていない。災害があったときに諏訪地域は比較的安全だと買っている人もいるだろうし、避暑地のために買っている人もいる、そういう住む目的以外の購入者が非常に多い。紅やマンションは特にそうで、それでも最近に住む人が多くなってきたが、100世帯ほどあるうち住んでいるのは20世帯もなく、夏の花火の時だけ満室になる。他のマンションもそういった所が多いのではないかと感じる。その対策をどうしていくかということも、市は考えていかななくてはいけないと思う。例えば、現在東京でサラリーマンをしていて、年老いたら諏訪に来ようかなと思っている人も買っている。そうすると高齢者の人口が多くなってしまい、そういうことも考えていかななくてはいけない。これからの社会の変化は、人口は確かに減っていくと思うが、諏訪の場合は極端に高齢者の人口が増えていくような気がする。大和では、高齢化率が40%を超えているような状態で、子どもの数が極端に少なく、学校問題も考えなくてはいけないと思っている。少し前までは1学年20人以下でも、学校の合併や通学区の変更の話になるとPTAは良い顔をしない。そういったこともマスタープランの中で考えなくてはいけないのではないかと思う。

バイパスができると、今の国道は県道になるのか市道になるのかわからないが、多分10年後には綿半の通りが県道になって、現在の国道は市道になる恐れがある。県の方で、今踏切が2つある所や歩道がほとんど整備されていない所がある国道20号を県道として持ってくれるかどうかわからない。その辺りを考えながら、是非県道として整備をしてもらうことも考えなくてはいけないと思う。

副委員長: 私は子どものことに関わっているため、将来どういう諏訪市を子どもたちに残していきたいのか、また人口

減少で子どもの数が極端に減っていくのを感じている中で、私たちが一番何を大事にしないといけないのかということを中心に考える。

ハードの面で充実していくことも必要だが、それと同時にまちづくりの中で人をどう繋いでいけるかが大事ではないかと思っている。これだけ温泉や湖などの資源があり、景観や気候などの自然環境にも恵まれている中で、生活者がどうしていかなくてはいけないかということをもう少しみんなでしっかり考えなくてはいけないときに来ているのではないかと思う。また、地域や人が繋がることによって災害時にどうすればいいかということを一ひとりが考えるきっかけ作りを、これからのまちづくりの視点に入れていくことが大事ではないかと思う。

それから、地域差がかなり出て来て、駅周辺に集中していくと思うが、それに加えて周りの地域の生活面や繋がるということ、道路・交通の面や、行政の建物が集まる場所、そういうものを具体的に整理して考えていく必要があるのではないかと考える。

もうひとつは、そういうことを住民が知っていく、諏訪市が今どう動いているか、この計画や総合計画を知ってもらう機会を増やし、常に身近に感じていただくことを行政も私たちも考えていかなくてはいけないと思う。まちづくりとは何なのかということ、もう少し具体的にみんなで考えられるような発信も必要ではないかと考える。

委員長: 都市計画マスタープランも立地適正化計画も諏訪市が将来多世代にとって暮らしやすいまちになること、また、暮らしやすくなるまちになるということが非常に大事だと思う。そういうことを将来像として描いて、諏訪に何が欠けていて、何を大事にしないといけないかということ、まず考える必要があるのではないかと思っている。放っておけば当然人口は減るという中で、様々な数字が計画書で検討されているが、全国のまちを見ていると、一様に人口が減っていくということではなく、人口減少時代には地域差もかなり出てくるのではないかと思っている。より暮らしやすい、暮らしやすくなるまちはそれほど人口も減らない一方で、魅力のないまちはどんどん人口が減っていく時代だろうと思う。また、ふるさと回帰支援センターが東京にあり、話を聞いていると少し前までは地方で暮らしたいという人は高齢者が多かったらしい。最近は圧倒的に若い人たちが多く、高齢者以上に多いそうだ。ただ何が問題かという、希望者はいるが、その希望にかなうまちが少なく、なかなかうまく紹介しきれないのが現実のようだ。都会においてもそういった需要がある中で、諏訪は十分に対象になり得るまちではないかと思う。昔はマルチハビテーションと呼ばれたが、2ヶ所に居住地を持っており、東京は借家、蓼科には持ち家があるという人が私の周りに結構いるが、それが諏訪ではないことが残念だ。そういうことも含め、暮らしやすいまち、暮らしやすくなるまちが非常に大事だと思う。

都市計画マスタープランも立地適正化計画も基本的に諏訪市という行政単位の中での計画である。実は諏訪の生活圏はかなり広がっており、必ずしも行政区域の中で生活が完結しているわけではない。そういう意味では、都市計画マスタープランの中にも周辺市町村との連携を意識した表現が、詳細は検討できないが、問題意識が少し入っていてもよいと思った。特に公共交通は、諏訪圏域で考えるくらいの視点が必要ではないかと強く感じた。現状で言うと、必ず駅前に出て公共交通を利用する、そういった利用しか難しい中で、生活圏域が諏訪圏域になっていることを考えると、広域で考える視点、つまり市町村間の連携も必要だと思う。

諏訪湖の話が出たが、自然環境の保全、管理、運営も行政界を超えて取り組まなくてはいけない課題だろうと思う。諏訪湖は諏訪市あるいは諏訪圏域の大事な財産でもあり、暮らしやすさを考えたときに必ず諏訪の自然環境はみなさんに評価されるものなので非常に大事だと思う。

交通まちづくりについて、公共交通が大きく変わっている、多様化しているということを意識して、計画書で詳細まで触れることはできないが、諏訪に合う形でどのように公共交通を導入するかが大事だと思う。色々な事例があるため、諏訪市にふさわしい公共交通を考えていただくことは大事ではないかと思う。

また、歩いて暮らせるまちというのは色々な意味で魅力のあるまちと言えるだろうと思う。その時に、公共交通プラス歩行がワンセットだと思っている。歩行だけではすべての移動を賄うことはできないため、公共交通と歩行をどのように組み合わせるかによって、違う暮らし方ができるようになってくるのではないかと思う。

歩くということに関して、松本駅の周辺は夜でも人がおり、駅周辺の歩行者空間が非常に良く整備され、歩いていても気持ちが良いまちになっている。歩いて暮らせるまちということ、もう少し面的に歩行のネットワー

クを考えていく必要があると思う。諏訪というまちを考えると、同時に自転車も大事に扱っていく必要があるのではないと思う。諏訪圏というスケールで考えたときに自転車で移動するということは、諏訪という地域をフルに活用できる、それを暮らしの中に取り込んでいくという意味では、自転車は非常に良い交通手段である。自転車にとっても、歩行者にとっても、車にとってもより安全な道路を考えていく必要があるかと思う。

災害についてもいくつか話が出たが、今回の都市計画マスタープランはハードを中心としたことが対象となっている。ハードのこれからのあり方を議論する中で、最終的にはコミュニティの再生を目指していく必要があるのではないかと考えている。先ほど話した、暮らしやすい、暮らしたくなるというのは、そこにどういったコミュニティがあるかということも大事になってくる。新しい時代に合わせた形でコミュニティを再生することも併せて、都市計画マスタープランやまちづくりを通してできると諏訪がより魅力的な場所になるのではないかと思う。

また、空き家の話も出たが、都市計画でも深刻な問題になっている。早い時期に良い形で手を打つ必要があると思う。問題のある空き家をどうやって少なくするかということと、同時にどのように活用するかという視点で今から取り組んでいかないと、ますます高齢化が進む中で増えていくのではないかと思う。そういった点では、非常に大事な課題になるのではないかと考えている。

委員：諏訪という所は非常に多くの温泉がある場所だが、今、公共温泉の維持が困難になっている。大和には5浴場あるが、10年後には全部無くなってしまおうと思う。耐震の問題や利用者の減少などから維持できなくなっている。下水道ができたことも大きな原因のひとつで、下水道代も必要になったことで温泉料が高くなり、温泉に対する負担が大きくなったということである。また、人数の多い家庭は温泉が安くて良いが、1～2人の家庭では自宅で沸かして入った方が安上がりである。温泉行政をどうしていくかということが問題である。

もう一つは、人口は減少しているがペットは非常に増えている。人が遊ぶ公園というよりペットも一緒に遊べる公園も必要ではないかと思う。そうするともっと住みやすいまちになっていくのではないかと思う。

計画書を見返すとそういったことは書かれていないので、少し記載して欲しいと思った。

委員長：都会でも銭湯が少なくなっており、それに対する補助を自治体がすべきかどうかという議論をしている。内湯ができ、銭湯を利用する必要が無くなり、そういう意味では銭湯のニーズがなくなっていることは確かである。一方で、都会でも特に高齢者を中心に、近所の人と出会う場所であるとか、ある意味での居場所になっている。そういう中で銭湯は是非残していく必要があるのではないかということで若い人たちも興味を持って、学生達も銭湯を中心にしたまちづくりまで議論している。せっかく諏訪に温泉があるから、これまでの役割はなくなっているかもしれないが、どういう形で地域にある温泉を使っていくかということは是非議論してもらえればよいと思う。そういう意味では、温泉は諏訪にとって大事な資源だと思うので、単なる観光だけではなく、地域のコミュニティにとって温泉をどのように利用していくかということも含めて考える必要があると思う。

あとは、諏訪の場合リハビリ系の医療施設が少なく、山梨では温泉を使ったりリハビリをやっており、そこには全国から利用者が来ている。温泉の活用方法も色々あり、単なる観光資源ではなく健康といった活用もあるのでないか、温泉に焦点を当てて、きちっと将来の可能性を議論してもよいのではないかと感じている。